

栃木県現代俳句協会報

No. 169



第一六九号

発行所

〒三二七-〇三二五

佐野市吉水駅前一五八 水口方

栃木県現代俳句協会

発行人

中井洋子

編集人

松本登子

令和五年五月十日発行

第67回俳句研究会

令和五年三月二十九日(水)

佐野市万葉の里・城山記念館

新たななる出会い

——花を愛で句を愛でて——

中田陽子

三月二十九日(水)、佐野の「万葉の里・城山記念館」で開催された俳句研究会に初めて参加しました。コロナ禍の影響で中止が続いたため、四年振りに開催されたそうです。

当日は桜が満開で、好天にも恵まれて絶好の吟行日となりました。会場のある城山公園や佐野市街地などを散策された方たちが、午後一時までに三句ずつを投句しました。

県内各支部から十八名の方が参加し、

五十四句が投句され、その中から各自五句を選句します。

季節柄、桜にまつわる句が多かったです。個性豊かな発想にワクワクしながら句会が始まりました。長年参加している人も、初めて参加した人も、一緒になって句を鑑賞し、忌憚のない講評が交わされました。

須藤火珠男さんが新しい参加者へのエールとして次のような俳句論を語ってください。とても参考になりました。



「俳句は自分が主体的な心で捉えた事を自分の言葉で表現するところに趣も力強さも生まれる。自分の心が言葉の中にしつかり入っていてこそ、読み手に作者の思いや感動が伝わる。俳句は一人で作るものではなく、読み手にどう受けとられるかを考えながら作るのです、こうした句会に出て思いを共有し、交歓、交流をすることがとても大切です。」

先輩の方々から温かいご指導をいただき、実り多き一日でした。

私以外にも初めて参加された方たちがいて、「良い雰囲気だった」、「長くやっている人が多くてどうなることかと思ったが、新人へも分け隔てが無く良かった」、「俳句の深みや季語選びの大切さを教わった」などの感想が聞かれました。

普段、顔を合わせない人たちと一緒に句会に参加するのはいい刺激になりました。今回参加されなかった方も次回は是非参加されて、交流の機会が盛んになると良いと思います。



城山公園



句会風景



ご当地グルメ



ご当地キャラ「さのまる」

◇特選賞

和田 浩一 選

集まつて息する我ら花の下

中井洋子

中井 洋子 選

流れ着くことばのやうに花筏

鯉沼桂子

石倉 夏生 選

まだ息をしており朱い落椿

和田浩一

須藤火珠男 選

芽ぶくもの芽ぶぎ城址の戦没碑

和田浩一

中村 克子 選

万葉の風かも知れず花吹雪

須藤火珠男

水口 圭子 選

佐野桜子らの歌えは子らへ散る

相田勝子

◇最高点句

まだ息をしており朱い落椿

和田浩一

◇その他の作品 (順不同)

万華鏡の中に居ること飛花落花 石倉夏生

翼のよう桜の瘤に咲くさくら

中村克子

芽木の風我が息青むまで歩く

水口圭子

老犬と人立ちどまる佐野桜

佐々木輝美

「さのまる」の幟手招き養花天

小杉恵美子

八重咲きの椿あいつち待つており

和田璋子

円仁の生地の小川花筏

中村國司

黙食の二人に春の蚊がひとつ

山野井朝香

母子草今日も城址を守りおる

高木洋子

千年潤れぬ山城の井戸桜散る

中田陽子

公園の坂の両側花盛り

山田和一郎

楽しさも寂しさもあり花ぶぶく

橋本尚子

両毛線さくらさくらの無人駅

松本登子

待ちに待った俳句研究会が、四年ぶり

に佐野市で対面で開催されました。

例年になく早い、咲き誇る桜の下で旧

交をあたため、思い思いの春のひととき

を満喫することができました。

(広報部)

諸家近詠

森本 金一

かの家の目印となり冬櫛

明日は解体上段の間の底冷えす

燃え尽きて締まる土手道野火の後

一輪の梅にほころぶ顔二つ

水温む護岸工事の昼休み

矢野 洋一

軋む隣国流水接岸せり

白梅やふつつ空に湧く力

キャタピラの轍の深し春の泥

開花前蔓延防止法解除

花冷えや人の名前を失せる時

花の山人生儂し団子美味し

春光浴ぶからだ全部で手話の人

黙々と独り飯食う八十路かな

夏来る澄雄の天女うすみどり

耳奥にジャズの裏拍春立てり

古井戸の木蓋の湿り紅椿

ピザ三枚届く馬鈴薯畑かな

朧夜の言葉は詩になりたがり

ねぢ花のねぢれを指に迎る母

遠景となりし昭和や鏡餅

高らかにマスクの中の卒業歌

二の丸の東に母校花曇り

つばくらめ戦なき国選び来る

いわし雲齡問われて言い淀む

相田 勝子

池澤 光子

須藤火珠男

第60回現代俳句全国大会

作品募集

投句締切は
7月31日
(必着)

現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統のある大会です。今大会は、協会的一般社団法人化と第60回を記念しての盛大な大会を予定しております。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。

- 応募規定 3句一組・2千円 何組でも可
ただし、新作未発表作品に限る。「3組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします」
- 前書き不可。所定用紙使用。〒、住所、お名前、電話番号、協会員・会員外の別を明記。投句料は普通為替、定額小為替(無記名で)、現金書留(必ず作品同封の事)、又は郵便払込(郵便局の青い払込取扱票をお使い下さい)加入者名・現代俳句協会、振替口座番号・0016016152603・振替払込受領証のコピーを投句用紙に必ず貼付してください。
- 送付先 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-4 倍楽ビル外神田7階 一般社団法人 現代俳句協会(全国大会係)
☎03-3839-8190
- 締切 7月31日必着
- 顕彰 協会の会員誌『現代俳句』に優秀作品を発表するほか、協会刊行物に採録。
- 賞 大会賞、後援団体賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作賞。
- 全国大会
令和5年11月3日(金・祝)午後一時より
「東天紅」上野店 〒110-8707 東京都台東区池之端1-4-1 ☎03-3828-5111
- 記念講演 赤坂憲雄先生(民俗学者)
「あくまで文学的な、武蔵野語り(仮題)」
- 講評 中村和弘会長はじめ協会幹部
- 懇親会 午後5時より(会費8千円)

[主催] 一般社団法人 現代俳句協会 [後援] 文化庁・毎日新聞社・朝日新聞社・読売新聞社

◆お知らせ

○龍 太一

評論集「結社論」出版

令和5年2月25日発行

○中井 洋子

令和5年度現代俳句協会理事会・総会出席

3月18日(土) 東京上野・東天紅

令和5年度第1回役員会・支部長会議

左記の通り開催されました。

2月20日(月)

於・キョクトウとちぎ蔵の街楽習館

○「第18回通信句会」

5月から8月にかけて実施されます。奮ってご参加ください。

○第68回俳句研究会期日変更

9月3日(日)に変更されます。(旧9月13日(水))

詳細は次号にてお知らせします。

※次号170号の原稿締切りは

6月8日です。